B CORP運動が環境 社会学に示唆するもの

環境社会学会研究例会20220728 コメント:大門信也(関西大学)

メニュー

01

環境社会学と 営利事業 02

集合的運動ツールとしての「認証」

03

環境と経済を媒介 する「社会」

環境社会学と営利事業

本コメントは こちらの立ち場から

題の社会学

- THE PART OF A PROPERTY OF THE CAMPA

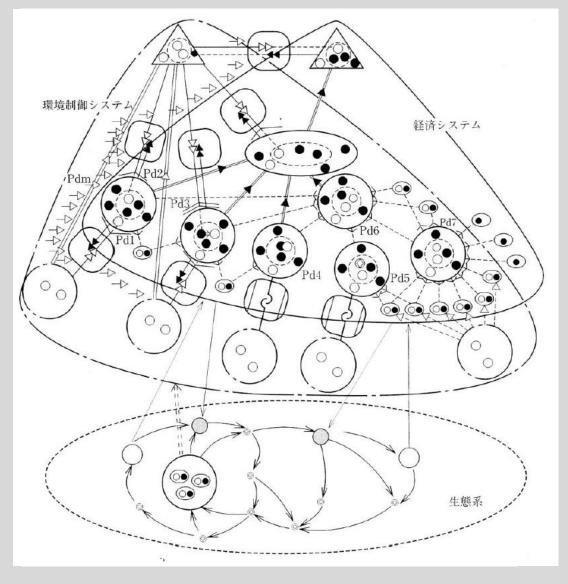
- 環境制御システム論 (ECS) ──価値葛藤的アプローチ
 - メカニズム:環境制御システムが経済システムに「介入」しそれが「盗
 - 。 図式:「経済」という**価値**に対して、「環境」という**価値**が外側か
 - 。マルクス物象化理論
- ∘ 新しい経済社会学 (NES) ——一元論的アプローチ
 - 行動から問題が生じ課題化され、それを解決する行動へ
 - 経済行為やその取引ネットワークそのものに規範(の生成) (埋め込みテーゼ)
 - プラグマティズム(思考や理念は問題解決の道具)

「「仕事」というものに、それ が本来もっていたはずの社会 性・公共性・政治性を取り戻す 運動」「だからといってそれは、 「仕事」あるいは「ビジネス」 というものを、すべからく公共 的な活動に従属させていくこと を意味しているわけではない」

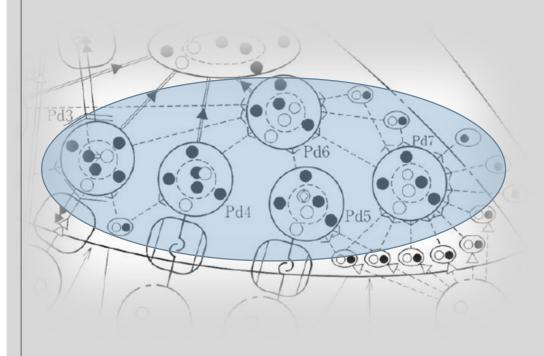
「「仕事」というものをいまー 度社会のなかに埋め込み直す」 —— 225頁 あとがきより

ECSからみたB Corp

- 。記述•説明
 - 。「環境配慮を中枢課題化」した企業群の形成過程
 - 。 D段階へ到達するための独特の運動戦略を提示
- 発見・洞察: 集合的運動ツールとしての「認証」(⇔事業者単独の取り組み)
 - 事業者同志のコミュニティ(仲間)の形成 (プロセスとしての認証)
 - 。 関係する取引ネットワーク全体を巻き込む
 - ※NES的に言えば、「組織フィールド」の形成



集合性——B Corpの運動戦略



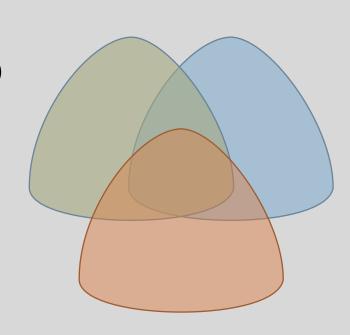
「社会を良くする」と一概に言っても1社の働きかけでできる範 囲は限られている。業界団体を含む多様なネットワークを通し て、集団で社会に対して働きかけなければ、より大きなミッショ ン(「ビジネスにおける成功を再定義する」)は達成できない というのは、B Corpムーブメントに通底する考え方だ。「コレク ティブ」「仲間」「ネットワーク」という概念がB Corpムーブメント において重視されているのはこのためだ。点を面に変えていくこ とで、社会的インパクトが増大する。認証B CorpのM&Aが 多いのも、ともに取り組む仲間をつなぎ合わせ「面」をつくって いくためだと考えれば納得できる。——51頁注【6】

BIA、5つの評価指標

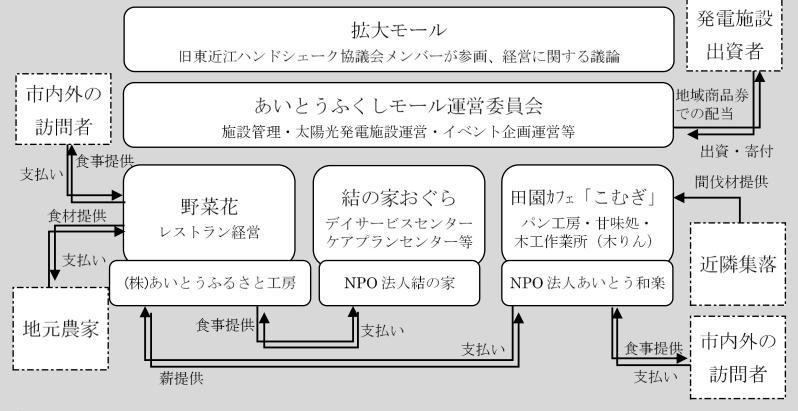
- ∘ ワーカー Worker
- ∘ コミュニティ Community
- ∘ エンバイロンメント Environment
- ∘ ガバナンス Governance
- ∘ カスタマー Customers

媒介者としての「社会」

- ∘ B Corpにおける「社会(的なるもの)」の強調
 - 。DEI(多様性、衡平性、包摂性)の強調(BLM、#MeToo)
 - 。「社会的・環境的責任」なる表現
 - 。BIAの基点となる「ワーカー」
 - ∘ 仕事を社会に埋め込む、という発想
- 。 ECS展開系としての「第三のシステム」論 (大門 2020)
 - (オリジナルECS:社会的なるものは背後に)
 - ▶「社会的なるもの」を媒介することで、環境と経済の関係にダイナミズムが 生まれる



社会福祉と環境の相互利用

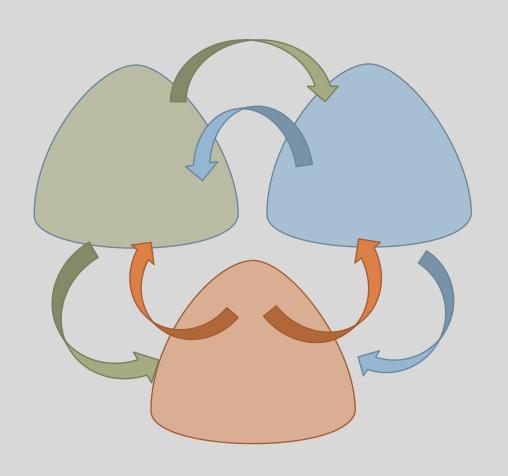




東近江三方よし基金の設立へ

大門(2017)

「環境」「経済」そして「社会」



- 。相互的な「道具」化?
 - ◦道具としての社会連帯
 - ◦道具としての経済繁栄
 - ◦道具としての環境保全
 - = 「結果としての持続可能性」 (丸山 2013)

。とくに社会/環境の分断に注意をはらう

まとめ——B Corpからの示唆

- 。ECSの説く「D段階移行」における「環境配慮の中枢課題化」を、集合的に増加・増進するような戦略を提示
- とりわけ運動ツールとしての(かつプロセ スとしての)「認証」
- 。くわえて、オリジナルECSでは後景に退いている「社会(的なるもの)」の媒介可能性も提示

- 。同時にNES、つまり経済社会学的視点 の本格導入の必要性も示唆
 - 。ECS的建付けはやや「重すぎる」のか もしれない

- 。端的にいって営利事業や経済との格闘 の重要性
 - と、その足がかりとしての「認証」

気になったこと (論点候補)

- 。B Corp運動の日本社会における展開可能性と困難は? (東アジアでも低位)
- 。「政府」はどう位置づけられうるか?
 - 。 B Corpの認証基準は、政策誘発的な側面がありそう (最低賃金、LCAなど)
 - 。 たとえばグリーンニューディール的な政策との関係も気になる
- ∘ (あえて) 批判的検討をするならば
 - M&Aはグリーンウォッシュと(も)いえるだろうか。
 - ∘ 認証を「目的」としてしまう企業はあるだろうか (認知や正統性が高まるほどに)
- 。その他
 - 。「Place Matter (風土)」の意味は? 脱成長論との関係は? 等々

参考文献

- 。 ハニーマン, ライアン・ジャナ, ティファニー(鳥居希・矢代真也・若林恵監訳, B Corpハンドブック翻訳ゼミ訳) [2014]2019=2022, 『B Corp ハンドブック:よいビジネスの計測・実践・改善』バリューブックス・パブリッシング.
- 大門信也,2017,「多文脈的で重層的な環境自治の可能性:東近江市の持続可能な地域社会づくり」大門信也編『2016年度ゼミ共同調査報告書孫子につなぐ地域社会づくりの研究:滋賀・東近江における環境問題への取り組み』:113-134.
- 。大門信也, 2020, 「正連動をともなう介入の進化と「第三のシステム」: 騒音問題と再生可能エネルギー問題の分析にもとづいて」茅野恒秀・湯浅陽一編著『環境問題の社会学:環境制御システム論の理論と応用』東信堂: 263-301.
- ∘ 舩橋, 2004, 「環境制御システム論の基本視点」『環境社会学研究』10:59-74.
- ∘ グラノヴェター, マーク(渡辺新訳), 2017=2019, 『社会と経済: 枠組みと原則』ミネルヴァ書房.
- 。大倉季久, 2017, 『森のサステイナブルエコノミー:現代日本の森林問題と経済社会学』晃洋書房.
- 。丸山康司, 2013, 「持続可能性と順応的ガバナンス: 結果としての持続可能性と「柔らかい管理」 『なぜ環境保 全はうまくいかないのか:現場から考える「順応的ガバナンス」の可能性』: 295-316.